

教員名	山本 秀行 (YAMAMOTO Hideyuki)
所 属	文教育学部人文科学科比較歴史学講座
学 位	文学修士 (1972 東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	rekishi@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

ナチズム / 第三帝国 / 植民地 / ナショナル・アイデンティティ / 社会史

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・単著「クルコフスキの『占領時代の日記』を読む」
お茶の水女子大学『人文科学研究』第3巻(2007年3月) pp.41-54
- ・単著 書評 田村雲供著『フロイトのアンナO嬢とナチズム』
『社会経済史学』71巻5号(2006年1月) pp.117-119

◆研究内容

ここしばらくは、ナチズムとドイツ第三帝国の諸問題を、複数の人種プロジェクトという観点からとらえなおすことを課題としている。

1. ナチス・ドイツによるポーランド占領政策については、ポーランド人医師の詳細な日記をてがかりにして、ポーランド人側からみた、ナチ人種プロジェクトの展開を分析した。その研究成果の一部は「クルコフスキの『占領時代の日記』を読む」(お茶の水女子大学『人文科学研究』第3巻 2007年3月 pp.41-54)として発表した。
2. また東欧占領政策研究の一環として、ウクライナについての、資料・文献調査をおこない、ドイツの過去の植民地政策との関連に焦点をあてて、文献を読んだ。
3. ナチズム研究との関連で、ドイツのナショナル・アイデンティティの形成とその機能について講義をおこなった。いずれ、論文などの形で研究成果として公表したい。
4. 東京書籍の『指導書 世界史B』の編集と分担執筆にあった。

◆教育内容

学部教育では、学生の文献検索、プレゼンテーションおよびレポート作成野能力の育成に力を入れた。コアの基礎ゼミ・教職演習、西洋社会史料演習、西洋史研究法などの授業がこれにあたる。

また、社会史や、旅の文化史など受講者が100人前後の授業においては、日本映画の『罅雲』とイギリス映画の『ブラス』を比較して、両国における20世のとらえかたの違いなど考えるなど、映像や図像資料を積極的に活用した授業をおこなった。このほか、歩いて学ぶ比較歴史の授業では、学生を引率して、印刷博物館とユネスコアジア文化センターを見学し、野外授業を行った。

西洋現代史の講義では、ナチズムと植民地主義との関係を、ナショナル・アイデンティティという面から整理し、ドイツ史の展開のなかに位置づけてみた。

大学院ではヨーロッパ社会史研究と論文指導にあたった。また、博士学位論文の審査では、副査として3件の審査を行った。

◆将来の研究計画・研究の展望

ナチス・ドイツの人種プロジェクトについては多岐にわたり、現在は複数の系列について、それぞれ史料と文献を収集し、調査している。今後はポーランドなどの文書館に収蔵されている史料などの調査も視野にいれたい。またナチズム研究と東欧占領政策、植民地研究を統合した研究テーマを発展させることも大きな課題である。

◆受験生等へのメッセージ

お茶大で学ぶ歴史学のいいところは、暗記物ではないことです。

見えないものを、見えるようにすること、そのために、いろいろ工夫することが、歴史学の醍醐味のひとつです。また、西洋史のスタッフには、ドイツ近現代史の僕のほかに、イギリス中世史の新井先生と、フランス近世史の安成先生がおります。お二人とも、いやといえない性格で、面倒見のよさには定評があります。3人のスタッフと3、4年生全員が参加する卒論指導のゼミは、毎回議論に花が咲き、時間を忘れる楽しいものです。4年生にとってはどうだかわかりませんが。ゼミのあと、近くのレストランで、ワインやビールかこんで、ひと息つくのも恒例となっています。